

## 2026\_0419「仕事机からの春」日々の理科 4270号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

職場の仕事机のすぐ横にある大きな窓から、春の構内の一角が見えます。この時期、視界いっぱいに広がるのはケヤキとイチョウの若葉です。冬のあいだ固く閉じていた芽が一斉にほどけ、やわらかな光を通す淡い緑が空間を満たしています。その足もとにはツツジがちょうど満開を迎え、白や紅の花が緑の下に彩りを添えています。季節の変化が、窓越しにくっきりと感じられる場所です。

窓辺には、3Dプリンターで作ったはにわたちを並べています。どこかとぼけた表情の彼らも、この明るい春の光を浴びて、まるで外の景色を眺めているかのようです。無機質な樹脂でできた造形物でありながら、背景の自然と不思議と調和し、季節の一部になっているように感じられます。

この窓から見える一角は「けやき広場」と呼ばれています。日中になると、近くの子ども園の子どもたちが何度も通りかかり、草花に触れたり、木陰で遊んだりしています。ときどきこちらに気づいて、「博士～～！」と元気な声をかけてくれます。白衣姿で机に向かっていているせいでしょう。本当は博士ではなく修士なのですが……。

研究や仕事に向き合う日常の中で、この小さな窓の向こうに広がる春の風景は、確かな季節の進みを教えてくれます。自然と子どもたちの気配、そして机上のはにわたちがゆるやかにつながるこの空間は、静かで豊かな時間の流れを感じさせてくれます。

